

アジア資料・情報の有効活用
をめざして
～アジア経済研究所図書館
の取り組み～

日本貿易振興機構アジア経済研究所
図書館 高橋理枝

目次

1. アジア経済研究所図書館の概要
2. アジア資料の活用に関する取り組み
 - A) 図書館見学・オリエンテーション
 - B) レファレンス
 - C) 大学図書館での資料展
 - D) アジア情報研修(国立国会図書館との連携)
 - E) 書誌作成に関する情報交換会への参加
3. まとめと今後の課題

1. アジア経済研究所図書館の概要

- 1960年設立。発展途上国研究支援のため主に途上国に関する社会科学分野資料、新聞・雑誌、統計、政府刊行物を収集。
- 蔵書数および構成：利用案内参照

※2018年1月現在(統計資料は除く)

言語	図書(冊数)/雑誌(タイトル数)	言語	図書(冊数)/雑誌(タイトル数)
インドネシア語	6,410/77	アラビア語	8,396/93
タイ語	5,956/115	トルコ語	1,884/22
ベトナム語	2618/55	ペルシア語	1,168/12
マレー語	992/12		
ビルマ語	717/13	中国語	55,338/831
ラオス語	459/6	コリア語	26,580/209

1. アジア経済研究所図書館の概要

＜利用＞ 閲覧は誰でも利用可。貸出はILL、共同利用制度（現在の大学図書館14館と提携）、賛助会員のみ。

＜配架＞ 地域に特化した配架：幕張移転後に受け入れた日本語・欧米諸語の資料は、地域別に配架。

＜業務分担＞ 地域に特化した業務分担：ライブラリアンのほぼ全員が担当地域をもつ。選書、現地語資料の整理、レファレンスは、地域担当者が対応。地域担当者が現地に出張して資料の収集、また現地書店からの直接購入も行う。

2. アジア資料の活用に関する取り組み

＜アジア資料についての考え方＞

現地語でしか得られない情報もあるとの考え方から、アジア資料の積極的な収集・活用を行う。

⇒活用のためには

- アジア言語を解する利用者に対しては、積極的にアジア資料も含めた情報提供を行う。
- NACSISに積極的に目録を登録し、資料の存在を見える化する。

2. アジア資料の活用に関する取り組み

- A) 図書館見学・オリエンテーション
- B) レファレンス
- C) 大学図書館での資料展
- D) アジア情報研修(国立国会図書館との連携)
- E) 書誌作成に関する情報交換会への参加

2-A.図書館見学・オリエンテーション

<見学の概要>

- 要望ベース。年間50~70件程度で推移。うち約30~50%が大学および高校の教員と学生(2010年以降は、15~35件、約150~470人)。2014年以降は、スーパーグローバル、スーパーサイエンス等の高校からの見学もあり。
- 近隣の神田外語大学が最多。首都圏が中心だが、愛知や神戸の大学からも。

65万冊以上の蔵書を使いグループ研究・調査をしませんか?
当館は開発途上地域の図書・統計・雑誌・新聞を取り揃えており、どなたでも無料でご利用いただけます。

グループ学習室のご案内

@アジア経済研究所図書館 In 海浜幕張



35名収容、プロジェクター・スクリーン無料貸出、無線LAN、専門性の高いレファレンス対応
学習室利用例：埼玉大学、明治大学、宇都宮大学、市民グループetc...。ゼミ合宿、グループ研究に最適です!

開発途上国研究拠点ならではの資料コレクション



図書65万冊、新聞470紙、雑誌3,700誌、新聞マイクロ資料(83ヶ国50年分)、電子資料16タイトル

快適な閲覧環境



利用時間：10:00~17:45(休館日を除く) カフェテリア有り(平日営業)
申し込み：TEL:043-299-9711 e-mail: Libtour@ide.go.jp http://www.ide.go.jp/Japanese/Library/Info/group.html

海浜幕張徒歩10分 東京駅から快速30分 駐車場完備

2-A.図書館見学・オリエンテーション

<見学の内容>

- 事前に申込者(大学教員の場合は特に)に聞き取りをし、対象地域や主題を把握。該当する資料を中心に案内できるように事前にある程度準備を行う。
- 地域が限定される場合は、該当する地域の担当者が見学を担当。地域のコレクションを紹介。
- 地域が多岐にわたる等の場合(現地語が必要ない場合)は、事前に教員、および地域担当者に相談しつつ、見学担当が案内することも。
- 見学者の希望や時間に合わせて、内容は調整。各国発行の新聞や雑誌、統計資料、現地語資料、データベース・電子ジャーナル、マイクロフィルム、貴重書についても案内。

2-A.図書館見学・オリエンテーション

● 地域のコレクション紹介パンフ

アジア経済研究所図書館 中東・北アフリカコレクションのご案内

アジア経済研究所図書館とは？
開発途上地域の経済、政治、社会に関する学術文献、基礎資料、新聞・雑誌などを所蔵する専門図書館です。どなたでもご利用になれます。

開館 10:00~18:00 (平日, 第1・3土曜)

休館 第2・4・5土曜、日曜・祝日月末最終日、年末年始

アクセス 〒261-8545 千葉市美浜区若葉3-2-2 (JR京葉線海浜幕張駅から徒歩約10分)



◆ 蔵書構成

アジア研図書館は発展途上国研究の資料拠点として、国内でも有数の中東・北アフリカ関係コレクションを所蔵しています (図書 約3万タイトル、統計資料 約2,500タイトル、雑誌 約900誌、新聞 約63紙)。図書の約3分の1は、政治・国際関係で、この地域における政治研究の重要性が表れています。加えて、ジェンダー、イスラーム運動、経済・社会問題、移民労働といったテーマも積極的に収集しています。また欧米および日本で刊行された学術図書・雑誌はもとより、中東各国の政府刊行物や国家統計、現地の大学・研究機関等の刊行物、アラビア語、ペルシア語、トルコ語の書籍、新聞なども直接現地から入手し、コレクションの充実にも努めています。

<言語別資料の所蔵状況>
 ☆アラビア語資料: 12,369冊
 ☆ペルシア語資料: 2,877冊
 ☆トルコ語資料: 3,539冊
 (2017年5月現在)

国別タイトル数 (2017年5月現在)



<分野別蔵書構成>



アジア経済研究所図書館 中国、香港、台湾コレクションのご案内

アジア経済研究所図書館とは？
開発途上地域の経済、政治、社会等を中心とする諸分野の学術的文献、基礎資料、及び最新の新聞・雑誌を所蔵する専門図書館です。どなたでもご利用になれます。

開館 10:00~18:00 (平日, 第1・3土曜)

休館 第2・4・5土曜、日曜・祝日、月末最後の平日、年末年始

アクセス 〒261-8545 千葉市美浜区若葉3-2-2 (JR京葉線海浜幕張駅から徒歩約10分)

◆ 蔵書構成：研究参考文献を提供

アジア経済研究所図書館は、社会科学分野において、日本における中国、香港、台湾の大規模コレクションを持つ図書館です。資料収集は、欧米諸国・日本の学術機関が発行する図書・雑誌に限らず、中国、香港、台湾で刊行された学術図書、統計資料、雑誌、新聞などを幅広く収集・提供しています。

約 63,000 冊の関連図書、約 13,000 冊の統計資料コレクション、681 タイトルの雑誌、108 タイトルの新聞など、豊富な中国、香港、台湾の研究情報資源を利用できます。

<言語別タイトル数>
 中国語: 38,356 タイトル
 日本語: 13,439 タイトル
 英語: 11,828 タイトル

<分野別蔵書構成>



<国・地域別蔵書構成>



2-B.レファレンス

- 電話、来館、メールで受付。該当する地域の担当者から回答。当館ウェブサイトおよびレファレンス協同データベースに事例を掲載。
- 最近の特徴：回答するのに時間のかかる込み入ったデータに関する要求が多い。複数の国やデータに関する問い合わせも増加。何をやりたいのかわからない学生、ゼミや卒論締め切り直前に駆け込む学生も多く、対応に苦慮するケースが増えている。

2-C. 大学図書館での資料展

- 利用促進が主な目的。共同利用制度の締結機関が主な開催場所。

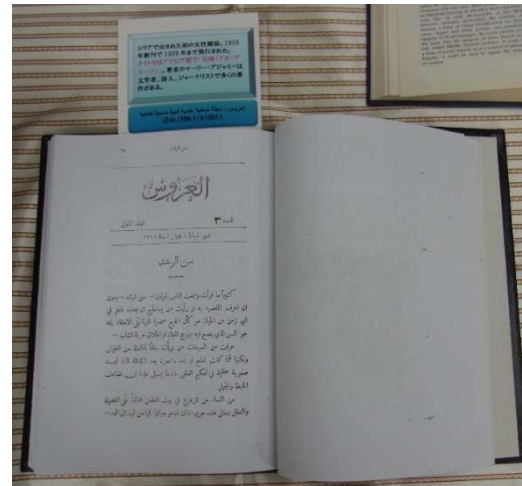
年度	資料展タイトル	開催場所
2017	「本と旅する東南アジア – アジ研図書館資料展 –」	千葉大学附属図書館
2016	「グローバルな人の移動を読み解く – アジア経済研究所図書館の所蔵資料から –」	上智大学図書館
2014	「周縁から読む現在社会 – アジア・アフリカの「マイノリティ」 –」	東京外国語大学附属図書館
2013	「イスラーム世界の女性たち」	お茶の水女子大学附属図書館

2-C.大学図書館での資料展

- 地域に注目した資料の展示、現地語の資料も含めた展示



- 現地語の資料にはタイトルの訳や紹介文を入れる。



2-C.大学図書館での資料展

- 関連分野のアジ研研究者、開催大学の先生に資料の紹介を依頼し、おすすめ資料コーナーを作成。ただし学部生でも読めるよう日本語・英語資料のみ。



2-D.アジア情報研修

国立国会図書館との共催により、アジア情報研修を実施。

＜アジ研図書館にとっての目的と意義＞

- ✓ 当館の認知度向上と利用者の拡大
- ✓ 利用者ニーズや利用者の検索行動について把握する機会
- ✓ 講師にとってもスキルアップの機会

2-E.書誌作成に関する情報交換会 への参加

- 東南アジア諸語の目録研究会で国会図書館、京大と連携。
- NIHUプログラム イスラーム地域研究 東洋文庫拠点 (<http://tbias.jp/>) が開催していた「アラビア文字資料司書連絡会」に参加。アラビア文字資料の整理に関する情報を交換。プログラム終了後もメーリングリストでの情報交換を継続。

3. まとめと今後の課題

- アジ研図書館は、アジア資料・情報の収集・提供における国内拠点の一つ
- 地域に特化した業務分担によりライブラリアンの専門性を確保
- 資料・情報、およびライブラリアンの専門性をさらに広く社会に活用してもらうために、
 - 大学と連携した利用教育の促進（積極的な広報、出張オリエンテーションなど？）
 - 当館の立地の悪さをどう克服するか、また所属学生を抱えていない図書館としてどのような役割を果たすべきかの検討

ご清聴ありがとうございました